

2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2022年1月28日

上場会社名 養命酒製造株式会社 上場取引所 東・名
 コード番号 2540 URL <https://www.yomeishu.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 塩澤 太朗
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 (氏名) 井川 明 (TEL) 03-3462-8138
 経営企画部長
 四半期報告書提出予定日 2022年1月31日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の業績 (2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	8,165	3.0	915	48.3	1,255	31.9	846	27.9
2021年3月期第3四半期	7,924	1.8	616	71.3	951	40.7	661	6.7

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	61.42	—
2021年3月期第3四半期	48.08	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	48,657	42,101	86.5
2021年3月期	47,869	41,564	86.8

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 42,101百万円 2021年3月期 41,564百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	—	—	40.00	40.00
2022年3月期	—	—	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の業績予想 (2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,450	0.6	920	41.9	1,260	24.8	890	10.2	64.57

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2022年3月期3Q	16,500,000株	2021年3月期	16,500,000株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2022年3月期3Q	2,708,777株	2021年3月期	2,731,324株
------------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

2022年3月期3Q	13,783,207株	2021年3月期3Q	13,762,095株
------------	-------------	------------	-------------

(注) 当社は「役員報酬BIP信託」を導入しており、当該信託が保有する当社株式は、期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式に含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(会計方針の変更)	7
(追加情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間(2021年4月1日から2021年12月31日まで)におけるわが国経済は、10月の緊急事態宣言等の解除によって、消費については一部持ち直しの動きが見られましたが、海外での変異株の発生等、予断を許さない状況が続いたこともあり、景気は依然として厳しい状況が続いており、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況の中で当社は、経営理念「生活者の信頼に応え、豊かな健康生活に貢献する」の下、事業ビジョン「すこやかでより良い時間を願う人々を応援する」に基づき、中期経営計画(2018年4月～2022年3月)において、「持続的成長に向けた事業基盤の構築」を基本方針として「選択と集中」「スピードと効率」「コスト管理の徹底」「経営基盤の強化」の基本戦略を推進し、「養命酒の売上回復」と「酒類食品分野の伸長カテゴリーへの注力」により事業の拡大と収益性の向上に取り組んでおります。

当第3四半期累計期間の業績は、売上高は「養命酒」が堅調に推移したことにより8,165百万円(前年同四半期比3.0%増)、営業利益は売上原価率の改善及び一部経費の削減により915百万円(前年同四半期比48.3%増)、経常利益は1,255百万円(前年同四半期比31.9%増)、四半期純利益は846百万円(前年同四半期比27.9%増)となりました。なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等の適用により、従来の会計処理方法に比べて売上高は73百万円減少し、販売費及び一般管理費が68百万円減少したことにより、営業利益、経常利益に与える影響は軽微であります。

セグメント別には以下のとおりです。

① 養命酒関連事業

養命酒関連事業の売上高は7,880百万円(前年同四半期比3.1%増)となりました。

<養命酒>

国内における「養命酒」につきましては、最需要期を迎えるにあたり、新規顧客の獲得と継続飲用者の維持に向けて、「冷え」をテーマとする草刈正雄さん出演のテレビ・新聞広告を実施し、好評を得ました。売り場においては、卸店やドラッグストア等主要販売チャネルである小売店と協働し、店頭露出の拡大に加えてプロモーションと連動した店頭展開や購入促進施策等を継続して実施したことにより売上が堅調に推移し、売上高は6,196百万円(前年同四半期比4.7%増)となりました。

海外における「養命酒」につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも輸出を前倒しで行ったこと等もあり、売上高は293百万円(前年同四半期比59.4%増)となりました。

以上の結果、「養命酒」全体の売上高は6,490百万円(前年同四半期比6.3%増)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は26百万円減少しております。

<その他商品・サービス>

「酒類」につきましては、「クラフトジン」の売上がスーパー等で増加した一方、コンビニエンスストア等で「フルーツとハーブのお酒」の売上が減少したことから、売上高は406百万円(前年同四半期比15.6%減)となりました。

「食品」につきましては、引き続き「養命酒製造クロモジのど飴」の取扱店舗数の拡大に注力しましたが、コンビニエンスストアでの販売が減少したことや、「食べる前のうる酢」の郵便局でのカタログ販売が減少したことにより、売上高は463百万円(前年同四半期比26.3%減)となりました。

「リテール」につきましては、「養命酒健康の森」を、ベーカリーを充実させた「くらすわ駒ヶ根店」としてリニューアルしたことや、「くらすわ本店」の売上が前年同四半期を上回ったこと、通販チャネルが堅調に推移していること等により、売上高は519百万円(前年同四半期比22.1%増)となりました。

以上の結果、「その他商品・サービス」全体の売上高は1,389百万円(前年同四半期比9.5%減)となりました。なお、収益認識会計基準等の適用により、売上高は46百万円減少しております。

② その他

不動産賃貸と鶴ヶ島太陽光発電所の売上を合算し、売上高は284百万円(前年同四半期比0.3%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べ787百万円増加し、48,657百万円となりました。これは主に棚卸資産が116百万円、有形固定資産が103百万円それぞれ減少した一方で、売掛金が1,048百万円増加したことによるものであります。

負債は、前事業年度末に比べ249百万円増加し、6,555百万円となりました。これは主に未払法人税等が192百万円減少した一方で、流動負債のその他に含まれる未払費用が408百万円増加したことによるものであります。

純資産は、前事業年度末に比べ537百万円増加し、42,101百万円となりました。これは主に四半期純利益846百万円の計上及び配当金552百万円の支払により利益剰余金が286百万円、その他有価証券評価差額金が204百万円それぞれ増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績の動向等を踏まえ、2021年5月12日に公表いたしました2022年3月期通期の業績予想を、以下の通り修正いたします。

売上高につきましては、「養命酒」の売上は堅調に推移しているものの、想定を上回る新型コロナウイルス感染症の影響によって、その他商品・サービスの売上が計画を下回っていることにより、10,880百万円から430百万円減の10,450百万円となる見込みです。また、利益面につきましては、販売費及び一般管理費の節減により、営業利益は720百万円から200百万円増の920百万円、経常利益は1,050百万円から210百万円増の1,260百万円、当期純利益は840百万円から50百万円増の890百万円となる見込みです。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,135,338	5,071,533
売掛金	2,452,494	3,501,421
有価証券	1,000,000	1,000,000
商品及び製品	458,674	404,203
仕掛品	128,590	141,080
原材料及び貯蔵品	927,774	853,654
その他	112,311	165,560
流動資産合計	13,215,182	11,137,453
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	4,146,266	4,141,353
その他(純額)	3,934,052	3,834,996
有形固定資産合計	8,080,318	7,976,349
無形固定資産		
	136,634	104,469
投資その他の資産		
投資有価証券	20,078,305	21,149,872
長期預金	3,400,000	5,900,000
その他	2,967,884	2,397,307
貸倒引当金	△8,340	△8,340
投資その他の資産合計	26,437,850	29,438,839
固定資産合計	34,654,803	37,519,659
資産合計	47,869,986	48,657,112
負債の部		
流動負債		
買掛金	139,335	184,432
未払法人税等	273,492	80,645
賞与引当金	219,887	97,232
その他	1,292,798	1,574,462
流動負債合計	1,925,513	1,936,773
固定負債		
役員退職慰労引当金	48,350	48,350
その他	4,331,612	4,570,328
固定負債合計	4,379,962	4,618,678
負債合計	6,305,476	6,555,451

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,650,000	1,650,000
資本剰余金	720,938	724,666
利益剰余金	38,107,212	38,393,475
自己株式	△4,914,788	△4,872,450
株主資本合計	35,563,362	35,895,692
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,001,148	6,205,969
評価・換算差額等合計	6,001,148	6,205,969
純資産合計	41,564,510	42,101,661
負債純資産合計	47,869,986	48,657,112

(2) 四半期損益計算書

第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	7,924,910	8,165,393
売上原価	2,962,477	2,980,754
売上総利益	4,962,433	5,184,638
販売費及び一般管理費	4,345,465	4,269,612
営業利益	616,968	915,025
営業外収益		
受取利息	35,070	37,400
受取配当金	279,141	287,635
その他	31,868	27,556
営業外収益合計	346,081	352,592
営業外費用		
支払利息	10,639	11,580
その他	525	395
営業外費用合計	11,164	11,975
経常利益	951,884	1,255,642
特別利益		
固定資産売却益	2,054	—
投資有価証券売却益	—	133
特別利益合計	2,054	133
特別損失		
固定資産売却損	—	303
固定資産除却損	28,740	29,038
投資有価証券売却損	—	13,656
特別損失合計	28,740	42,999
税引前四半期純利益	925,197	1,212,775
法人税、住民税及び事業税	251,000	307,000
法人税等調整額	12,447	59,221
法人税等合計	263,447	366,221
四半期純利益	661,749	846,554

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これにより従来、販売費及び一般管理費に計上しておりました販売手数料等の顧客に支払われる対価を取引価格から減額する方法に変更するとともに、顧客との契約における対価に変動対価が含まれている場合には、変動対価に関する不確実性が事後的に解消される際に、解消される時点までに計上された収益の著しい減額が発生しない可能性が高い部分に限り、取引価格に含めております。

また、収益認識に関する会計基準の適用指針第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は73,240千円減少し、販売費及び一般管理費は68,657千円減少したことにより、営業利益、経常利益及び税引前四半期純利益に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期末残高は7,938千円減少しております。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前事業年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積りの仮定について、重要な変更はありません。